

新春法話 「学んで人生楽しく」

あけましておめでとうございます。

新春を迎え、正光寺の初詣にお参りいただきありがとうございます。

今年の新春法話は「学んで人生楽しく」です。学ぶことは学校だけで十分だという人もいますが、学校で学ぶは言うなれば勉強です。本来学ぶとは自発的な行為なのです。生きる上で学びは不可欠です。この世はわからないことだらけです。私たちは色々なことを知り学ぶことで、私たちの人生がより良き道になるように努め、心豊かになることを求めることが大事です。

そこで人生の良き道を示す教えの一つが仏教です。仏教では、この世は苦しみで満ちている。苦しみから逃れるには智慧を体得して悟りの境地に至るしかないと言います。そして智慧の体得のために「聞思修（もんししゆ）」の実践を説きます。仏様の教えを聞いて、思考し、修行することによって智慧は体得できるということです。この教えは、私たちの日常生活の学ぶ姿勢に活かすことができます。

「聞」 聞くということ。人の話に耳を傾け、分からないことは尋ねて聞くことが大切です。聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥という言葉がありますが、聞くことで学びは始まります。

「思」 思うということ。聞いたことの内容を整理し、自分に問いかけてみる。そこで自分に欠けていることや自分の考えの間違ったところに気づいて反省してみることです。

「修」 実践すること。人から聞いて良いと思ったことを実践するには、真似をしてみることから始めるといいでしょう。分からなくなれば、また聞けばいいのです。実践を通じて自ずと分かり得ることがあれば、それが智慧なのです。

聞思修で学び得た智慧は必ず各々の人生をより良きものへと導くことでしよう。

また、学ぶことで心の豊かさを求めるには、好奇心をもつことです。好奇心とは興味を示すことです。日常生活の中で少しでも興味を持つことがあれば、それを深く追求してみようと思う心が好奇心です。老若は関係ないと思います。例えば料理やカラオケ、ゴルフで上達したいと思うこと、物事の歴史や、仕組みなどを調べようと思うこと、こうした好奇心を持って学べば、学び得たことに喜びを感じるはずで、多くを学べば、喜びも多くなります。喜びが多ければ、人生を豊かに感じるはずで、

しかし学ぶには心の余裕が大事です。日頃何かに追われながら慌しい生活の中では、学ぶ意欲も湧かないでしょうし、学んだとしても学んだことを活かすことはなかなかできないでしょう。生活に余裕をもたせ、何かを求める心があれば、様々なことを学ぶことによって、自分に大きな成果をもたらすことでしよう。人によって学びは種々多様ですが、学ぶことで人は良い意味でかわっていきます。ですから常に学んでいる人は、生活に余裕があり生き生きとしています。

泣いても笑っても人は歳はとり、老いていくのが人の一生です。学んで人生楽しく過ごすことで、自分の一生に誇りをもてるようにしましょう。

さて、あなたは今年は何を学びますか？

合掌

平成二十七年 乙未

元旦

延命山正光寺 住職 高野隆晃